

## 2008年第2回対話集会議事録

実施日時： 2008年8月9日(土) 13:30~15:20(予定より20分間超過)

場所： 鳴門・大塚スポーツパーク アミノバリューホール2F視聴覚室

参加者： 事前申込者60名中52名

当日参加者17名

徳島ヴォルティス 代表取締役社長 高本浩司

取締役 富本 光

強化部長 中田仁司

営業推進部長 伊藤徳也(進行)

メディア参加 徳島新聞社

四国放送

スカパーフェクトTV

### 【高本/挨拶】

「今日は暑いなか対話集会にご参加いただきまして本当にありがとうございます。  
チームとしては本当にイライラするというかそういう状況の中で、このよう時だからこそ、  
皆さんの忌憚のないお話しをお聞かせいただければと思っておりますので、  
本日はよろしくお願い致します。」

### 【進行係アナウンス】

#### 【Aさん】

「対話集会は試合当日ではなく、別の日に多くのヴォルティススタッフ参加のもと開催したほうがよい  
のではないのでしょうか。」  
また、今日のような場合は、事前にメール等で意見・質問を集め、紙面で回答するといった方法を  
考えて欲しいと思います。」

#### 【高本】

「ヴォルティスとしては、できるだけいろいろな方々が、多くご参加頂けることが望ましいと考えて  
いますので、検討していきます。」

#### 【Bさん】

「対話集会等の意見や要望に対しどのようにしているのでしょうか？例えば今までクラブ側からの反応が  
ないです。」

#### 【高本】

「対話集会の意見等により、ゴミの持ち帰りからエコステーション設置をしたり、マスコットに関しても  
現在準備中です。また、メールマガジンの不具合の対応もさせて頂きました。対応が遅い部分はある  
かもしれませんが、できることは少しずつでも早くやっ行って行こうと取り組んでおります。」

#### 【Cさん】

C-1 「試合直前のシュート練習で枠にあまりにも入っていないのはなぜですか。試合前の練習は  
きっちりと枠にいく練習をして欲しい。」

C-2 「試合中に中盤の前にスペースができていのにボールを運ばないのはなぜか？」

C-3 「選手は、自分達の試合のビデオ等を見てミーティングなどを行っているのか？」

#### 【中田】

C-1 「試合直前のシュート練習に関しては、まだまだ技術的なものが足りない部分もありますが、  
試合前の感覚的な練習の部分もあります。普段の練習から技術の向上を図っていますので少しずつ  
変わってくると思います。」

C-2 「当初よりは、技術的な向上が見られた結果、前にいけていない部分はあります。  
日ごろの練習で前に行く事を指導しています。」

C-3 「ビデオ等を見てミーティングを行っています。美濃部監督の指導によるところもありますが、選手  
が自主的に会話をする事もしています。」

#### 【Cさん】

「直前のシュートだけはやっぱり試合前だったらどんどん入れて下さい。選手が厳しいコースを狙うのは  
いいと思いますが。」

【中田】

「今まで以上に集中と緊張感を持つよう改善していきます。」

【Dさん】

「現在のチーム作りは、ある程度の長期を見据えた物との事ですが、美濃部監督が継続して行かれる事と理解していいですか？」

【中田】

「長期的な展望を持って美濃部監督にやってもらってます。」

育成に関しての説明を行う（人の育成・戦術の育成・システムの育成も必要）

【Dさん】

「そういう事を感じますので本当に続けて行って、花開く時を見たいと思いますのでよろしくお願ひします。」

【Eさん】

E - 1 「シーズン開幕前の目標、勝点56 / 一桁順位に対して、現在この非常に厳しい状態になっていますが、どうしてこのようになったのかを、どのように考え、どのように思っているのか。また、今後のシーズンの目標をどこに持っていくのか？をお聞かせ下さい。」

E - 2 「またお二人にとって、サポーターとは何かを語って下さい。」

【中田】

E - 1 「当初の一桁順位に対し、残り15試合ありますので、そこに近づける為に努力と改善をして前向きに進めています。目標に対しては全くブレていないし、今のやり方（シーズン途中の選手補強・戦術の育成・システムチェンジ・選手のポジションの変更等）の継続と、これからは変化を持ったいろんな形を取り入れて、一桁順位に向かって進んでいます。」

E - 2 「サポーターとは皆さんが皆さんの力でチームを作り上げる。我われは現場サイドでのプレーヤーとかコーチングスタッフとしてやりますが、我われだけがサッカーをしている事ではないと思っています。だから僕らは常に一つで、仲間です。その中で一体感があって、みんなでイヤな時はイヤだけれども、それをも乗り越えて行くもので、同じ輪・同じ力となってやっていけるのが僕はサポーターだと感じています。」

【高本】

E - 2 「私としてはやはりクラブと一緒に作っていただける同志だと思っています。この徳島ヴォルティスは企業スポーツから企業が引っ張ってJリーグに上げたクラブだと言ってもいいと思います。それを皆さんと一緒に地域のクラブにすることが私の仕事だと思っていますし、それを一緒にやって頂きたいと思っています。今までは企業が引っ張って来たのを、サポーターや地域の皆さんと一緒にクラブが引っ張って、その後を企業がフォローするという形の本当の地域クラブを作っていく為の同志だと思っています。」

【Eさん】

「私の考えですけれど、サポーターといいつつも所詮は客です。お金を払って来ている客なので、週末にスタジアムに来て応援したり、楽しんだりするところもあります。仲間とはいいつつも、そちらはお金を貰って、こちらはお金を払いながらやっている事だけは忘れないで下さい。」

【Fさん】

F - 1 「始めに短期的な部分として、スタメンの選手が大幅に入れ替わっていますので2~3日のミニキャンプを何度かやればと思います。」

F - 2 「来シーズンは選手を思いきって減してはいかがですか？今年も去年もたくさん補強しました。そういうのはチームの情勢として一丸となるという意味では問題があると思います。だからひとつの選択肢として、支配下選手を少し減らして集中投資をするみたいな考えはどうかと思います。」

F - 3 「長期的にJ1という事もあります。やはり愛されるチームという事で高本社長の考えられている事はよく解かりました。しかし、球団の経営者としては良いと思いますが、成績面から考えるとサッカーチームの運営者としては良くありません。中田部長さんがされている事もかもしれませんが、長期的にはGM（ゼネラルマネージャー）を置くような考えで、社長はそちらにあまり関わらない

ような事を考えられたらどうかと思います。みんなに愛されるチームになる為には時々は勝たないと愛せません。だから時々でも勝てるようにと思って考えました。」

#### 【高本】

F - 3 「今年の初めから対話集会等には中田にチームについてしゃべってもらっています。基本的にチーム関係で経営に関わる金銭に関係する事は会話しますが、他の部分に関しては、中田と美濃部を含めて任せている様な状況です。それと、事業的な部分は、私と今回取締役役に就任しました富本の二人でやっています。チーム関係に関しては、ほとんど入って行ってない状況です。」

#### 【中田】

F - 1 「ある程度は固定していかないとコミュニケーションであったり連携が積み重ならないというのがありますが、J2リーグの日程上、現在なかなかキャンプをすることは難しいです。しかし、日頃の生活の中でランニングの時とか、練習後のアフタートレーニングの時とかで話し合いをしていますので、キャンプを行わなくても今の状態で十分まかなえると思っています。」

F - 2 「来シーズンの選手数に関しては、今季も当初社長からは25か26名位でという事もありましたが、長期離脱する選手が何人かいましたので、その辺の事も考慮しながら最終的には30名位でのスタートとなりました。その後、その中でもなかなかケガが治らない選手であるとか林選手の様な長期離脱をする選手もでましたので、今現在補強し32名となっています。実際には先ほど言われたようにもっと少人数に持って行って中身を整えられれば、25名位でいいのですが、中身がない所ですぐに人数を少なくしてしまうと難しくなってきます。J2ですとケガ人ができることも考えますし、長期的に育成をする若い選手も必要になってきますので早急に人数を少なくすることは得策ではないと思っています。」

F - 3 「J1は無理というかそういうではなく、我われはJ1を目指しています。それがいつなのかという今年は無理ですが、来年は勝率が上がってくれば行けるでしょうし、そこまでいけない順位であればもっと地固めをするよう変更していきますので、J1を目指していないという事は無いですし、もっと高い目標を持っていないと駄目になってしまいますので、常に上を目指してやって行く事を考えています。外国人選手の事ですが、ダウンビア選手が抜けて彼と同等の選手が来てくれればいいのですが、それと林選手のケガの事もあって、高さという所も補強のポイントでした。外国人選手のところで高さのある選手と、スピードとテクニクのある選手をという事でソウザ選手とアンドレジニョ選手を補強しました。結果、Jリーグの外国人枠の規定が3名までの登録なのでアンドレ選手の登録を抹消し、ダ・シルバ選手との3名でやっていく事としました。この事は、アンドレ選手にとっては残念な事でしたが、我われとしてはこれからの勝ちに結び付ける改善として上位を目指すために判断しました。」

新人選手（菅原選手・大西選手）に関する説明

新外国人選手の状況を説明

#### 【Gさん】

「毎年補強で戦力アップを図っていますが、残念ながら結果に結び付いていません。

結果がでないのであれば、思いきって若手選手を起用し経験を積ます事が、若手選手の育成となるのではないのでしょうか？」

#### 【中田】

「育成というのは、若手選手を起用し続ける事が必ずしも育成にはならない事があります。チャンスがありながらも結果が伴わなければ、本人は悩んでしまっ潰れてしまいます。また、現状はチームの補強をしないとチームの結果も求められていますので、チームの育成という事も考えなければなりません。また補強選手とプレーをしたり、補強選手のプレーを見る事も、若い選手にとっての大切な育成になると考えています。このような状況の中で、若手選手は技術を磨き、自らチャンスを作っていくことが必要でこのような事も育成と考えています。」

#### 【Hさん】

H - 1 「前に2010年までに上位を目指せるチーム作りをするという事をお聞きしましたが、現在の状況で今後どのようなプランを持っているかを教えて頂きたい。」

H - 2 「他のチームと比べて、シーズン途中の補強が多すぎるのではないですか？」

H - 3 「育成も考えた上で、高校生のスカウティングはどのように行っていますか？」

【中田】

H - 2 「シーズン前は多分これでやれると思って始める訳ですが、チームの事を考えるとやっぱり補強は必要になってきます。今年と去年の違うところは、完全移籍の補強を中心に、一部レンタルの選手もいますが来年を見越した補強を行っています。」

H - 3 「高卒ルーキーに関しては、我われも意識してスカウティングを行っています。特に地元エリアで獲得ができればと思って活動しています。」

【Hさん】

「若い外国人選手のスカウティングはどのように思っていますか？」

【中田】

「ダウンピア選手に関しては、柏レイソルさんとの情報交換により、柏さんの事情もあり、徳島でがんばってもらえると思い獲得しました。」

ダウンピア移籍状況を説明

【高本】

H - 1 「2010年に上位を目指す為に、過去のチーム成績が悪いことをないがしろにする事はしませんが、クラブとしては、この3年半で色々な環境整備を行っています。去年は、板野にTSVをオープンする事ができ、今現在もTSVに観覧スペースと展示室を建設中です。また、選手の食事環境もスポンサー企業のお陰で改善できました。会社の経営規模も少しずつではありますがアップしています。クラブとしての成長はできていると思っています。」

また、将来のファンを増やす為に、子ども達を対象としたサッカー教室とか招待事業等、色々な社会貢献活動を実施しています。

次に、育成においては徳島県出身のJリーガー・ヴォルティスの選手を作りたいと考えています。そのためにユースの選手や高校卒業後の選手が海外研修できる環境整備等を考えています。

以上のような環境整備を行うことにより、2010からの5年間でチームが上位を目指せるクラブになるように努力しております事をご理解下さい。」

【Fさん】

「来年は具体的に、どうなるのでしょうか？今年と同じでは納得いきません。」

【中田】

「来季を見据えたうえで、今いる選手の人選、若手選手の獲得や移籍による補強を、限られた人数の枠のなかで行っていきます。」

【Fさん】

「それで、一桁を狙えるのですか？」

【中田】

「そこを狙うための人員確保を行います。」

【Fさん】

「美濃部監督のコメント等に『続けていく事しかない』とありますが、結果に結び付いていません。この状況の中で何かドラスティックに変革をしないといけないと思います。過去は、毎年監督を変えてきましたが結果は変わっていないという事は、監督を変えても何も変わらない事ははっきりしました。その上で、つぎは何をしてくれるのか聞かせ下さい。」

【中田】

「選手層をあげていき、質の向上を図っていきます。」

【Fさん】

「観客動員を計って収益を上げることによる選手人件費のアップ、練習環境の整備をされている事はわかりましたが、このような状態のチーム(田舎の成績不振チーム)で資質の高い選手の獲得などはできるのですか？もっとアピールすることを考えなければ、いけないのではないですか？このような状況のなかで今年も最下位になるようであれば納得できない。プロとして練習等もやられるわけですが、それで結果が出ていれば問題ないと思いますが、現在のように結果がでないのであれば、最近の社会情勢にもありますが、素人の意見とか外部人材のというか、新しい風・新しい血を入れるようなことも必要ではないかと思っています。」

【高本】

「外部人材と言われるのは、選手の事ですか？スタッフの事でしょうか？」

【Fさん】

「先ほども言いましたが、高本社長の経営者としての手腕は評価していますが、チームとしての手腕は認められない。」

【高本】

「先ほども申しましたが、チームとしての結果には納得はしていません。しかし、中田・美濃部が今年やっていることは、決して間違っていないと考えていますし、今までの3年間とは違う指導を行っています。今は、現在やっていることをやり続けることが大切だと考えています。」

【Bさん】

B - 1 「先ほど、強化部長のほうから戦術の育成という説明もありましたが、ボールを放り込む戦術が、今後の試合や来年の試合に対して、より高度な戦術を達成するための効果があるのかを教えてください。」

B - 2 「2010年～15年の間にJ1を狙えるようにとの事ですが、現実的なものの考え方もあるでしょうが、プロスポーツの運営会社であるならばもっとみんなの注目を集めるという事も考えて、施策であるとか話題づくりに行く必要があるのではないのでしょうか？ 3年半前であれば、誰しものがヴォルティスのことを知っていましたが、現状急速に熱が冷めていっています。この現状では多少無理な目標も掲げて県民にアピールする事も必要ではありませんか？例えば、J1昇格に向けて、バックスタンドの改修やスタジアムに屋根をつけるとかを依頼してみるとか、もっと積極的な発言とか話題づくりをしていってはいかがでしょうか。」

【高本】

B - 2 「ジレンマはあります。今チームは本当にいいサッカーをしていると思いますしだいぶ変わってきていると思っていますが、あと少しのところまで結果に結び付かない。もう少し結果が伴えばもっと話題になれると思っているんですが。

あとスタジアムについては、関係者の皆さまにお会いするたびに少しずつではありますがお話をさせて頂いております。なかなか厳しい部分ではありますが、お話を引き続きさせて頂こうとは考えています。それと、4年間で話題が少なくなってきたという事は、結果が伴っていない状況で確かにあると思いますが、このような状況だからこそ地域クラブを目指し、皆さんにも一緒に歩んで頂きたいと思っています。今後は、いまのご意見のように、もっともっと話題になるような活動を考えていきます。」

【Bさん】

「例えば今年は終わってしまいましたが、地域の夏祭り（花火大会）等にヴォルティスとして参加すべきではないでしょうか？また今後、地域のイベント等に楽しい企画案を提案すれば受け入れてくれるところもあると思います。」

【高本】

「そうですね。」

【中田】

B - 1 「まだ回答が終わっていませんので、育成の戦術ということでロングボールを蹴る部分ですが、なぜ蹴るかという、他チームがヴォルティスはショートパスを繋いで展開することを分析しています。だからそこを狙われて、やられる部分がでてきています。そこで我われも、ただ放り込むのではなくエリアをはずして展開する戦術を取っています。その為のターゲット（ソウザ選手）であり、ターゲットからのボールを拾っての展開を練習しています。また、1・5列目からの飛び出しも少しずつ出来るようになってきています。もっと頻繁にできればと思います。」

【高本】

JFLとの入れ替えに関する説明

【J2リーグの将来像】

1、J2リーグのクラブ数を、22まで増やす。

a . J2が19クラブになった翌シーズンに入会できるクラブ数は、22から逆算して定める。

2、J2リーグが22クラブになったシーズンから、J2とJFLの入替制度を導入する。

a . JFLからJ2へ最大3クラブが昇格（入会）し、同数のクラブがJ2からJFLへ降格（退会）する。

入替戦またはプレーオフ等は実施しない。

- 3、J2リーグが18クラブになったシーズンから、J1とJ2の入替戦を廃止し、リーグ戦成績をもって昇降格要件とする。
- a、J2からJ1へ最大3クラブが昇格し、同数のクラブがJ1からJ2へ降格する。
- 4、全国で100以上のJリーグを目指しうるクラブが活動することを、将来目標とする。

#### 【現在の準加盟クラブ】

栃木SC  
ガイナレ鳥取  
ファジアーノ岡山  
カターレ富山  
ニューウェーブ北九州

#### 【Iさん】

「観客数が減っています。愛されて強いチームをとの事ですが、その為にレギュラー選手の地域貢献イベント等への派遣を考えてもらいたいと思います。

(例) 外国人3選手による企業訪問など

実際にプレーしている選手がイベント等を行う事により、チームが弱い状況でも応援しようという気持ちになってくれやすいと思います。」

#### 【高本】

「レギュラークラスがイベント等に参加するのは、スケジュールや時間の都合もありますが、できるように検討していきます。」

#### 【Jさん】

「マスコットキャラクターをつかって欲しい。一般公募等でもいいので。」

#### 【高本】

「今、他チームを含めいろいろな皆さんにご意見を頂いております。一般公募にはメリット・デメリットがありデメリットのほうが多いようにも伺っています。また、前回のアンケート結果のなかで「たぬき」が人気でしたので、「たぬき」で進めてみようかとも思っています。現状マスコット製作に関しては大変遅くなっていますが、皆さんに愛されるようなかわいい物を作れたらと思ってやっていきます。」

#### 【Jさん】

「スタジアムグルメというか、ヴォルティス弁当みたいな物を作って欲しい。」

#### 【高本】

「近々、徳島バーガーを試験的に販売する予定があると聞いています。」

#### 【Kさん】

K-1「ケガ人が多いのはどうしてですか？」

K-2「グッズの販売・商品管理はどうなっているのですか？雨の日にポンチョが無いし、子ども用のポンチョも無い。夏休みなのに、子どもサイズのレプリカユニフォームが無いし、子どもが買えるような小物類も無いという状況です。」

K-3「前回のアウェー愛媛戦に行ったときに、愛媛にはファミリー割引のチケットが販売されていたがヴォルティスでは販売しないのか？」

K-4「ヴォルティス側から依頼して、小学校等の訪問を行ってはどうか。」

#### 【高本】

K-1「ケガ人が多いと言われますが、昨年から今年の、多分同じ選手かと思っています。これからは、その辺も見極めていかなければならないと思っています。」

K-2「グッズに関しては確認します。実際、販売状況の都合でなかなか不十分な事は承知していますので、多少販売が伸びていなくても品揃えを考えていきたいと思っています。」

K-3「ヴォルティスの現状から考えると、現行のチケット付ファンクラブ会員を継続する事を考えています。今後一般のチケット販売が4000人平均を超えてくる時点で、チケットの販売を検討していきます。その中でファミリー割引等も検討にあがってくると考えています。」

K - 4「小学校まわりはやっています。昨年度は約12000名の児童に対しての巡回教室を行いましたし、今年も実施しています。」

【Lさん】

「現在サテライトリーグとかセカンドの試合が、TSVで行われていますが、TSVは観戦にはあまり向かないと思いますので、有料にしてでも別の所での開催を考えていただきたい。例えば大人500円子ども無料にしてでも別の所と、TSVはあまりにも人が入れないと思います。」

【高本】

「考えてはいません。確かに観戦にはご不便をかけている部分があるかとは思いますが、現在施設の一部を階段状に改修したりクラブハウスの建設も行っており、少しずつではありますが整備を進めています。それもすべてTSVを、地域スポーツの拠点とするために行っております。多くの子どもにも集ってもらい、その横でトップチーム等が練習をしているとか、セカンドが試合をしているような環境作りの拠点にしたいと考えていますのでご理解下さい。」

【Cさん】

「今後チーム力の向上とともに観客数を増やす事も必要だと思います。その為にもっと直接的に少年サッカーチームに働きかけをして下さい。そして来場した際には、チーム名をスタジアムで紹介するとか、ヴォルティス鉛筆を作って一本ずつ配るとかをすれば、子どもは喜ぶと思いますし、今度は子どもが親を連れて観戦に来るようになると思います。また、自治体に関しては現在の出資団体を、県下全域に拡大できるような活動を行って欲しいと思います。我われにとってヴォルティスは、今までは都会でないとできなかったプロスポーツ観戦が、徳島で出来るという状況を作っただけでなく、他府県に対しての情報発信が出来る貴重な存在ですのでこれからもがんばって下さい。」

【高本】

「ご意見として頂きます。」

【高本 / 挨拶】

「本日は、ありがとうございました。何度も申しますが私は2010年に上位の狙える地域クラブを作りたいと思っております。チーム成績の悪い時も一緒に地域クラブを目指して頂きたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。ありがとうございました。」